

令和2年度
教育課程研究集会
中学校保健体育

奈良県教育委員会事務局保健体育課
学校体育係 村井篤史

1. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校保健体育より
 - 第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順
 - 第3編 単元ごとの学習評価について

2. 令和2年度「中学校保健体育科担当指導主事連絡協議会」より

学習指導要領のつくりについて

学習指導要領のつくりについて

例) 【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育 第1 目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

学びに向かう力、人間性等

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

学習指導要領のつくりについて

教科の内容

保健体育科	
【体育分野】	【保健分野】
体づくり運動	健康な生活と疾病の予防
器械運動	
陸上競技	心身の機能の発達と心の健康
水泳	
球技	傷害の防止
武道	
ダンス	健康と環境
体育理論	

学習指導要領のつくりについて

保健体育科の内容のまとめ

【体育分野】 第1学年及び第2学年	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 陸上競技
	D 水泳
	E 球技
	F 武道
	G ダンス
	H 体育理論
【体育分野】 第3学年	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 陸上競技
	D 水泳
	E 球技
	F 武道
	G ダンス
	H 体育理論
【保健分野】	(1) 健康な生活と疾病の予防
	(2) 心身の機能の発達と心の健康
	(3) 傷害の防止
	(4) 健康と環境

学習指導要領のつくりについて

【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育

第2 各学年の目標及び内容〔体育分野 第1学年及び第2学年〕 1 目標

知識及び技能

(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

学びに向かう力、人間性等

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、構成に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

学習指導要領のつくりについて

例) [体育分野] 第1学年及び第2学年「E 球技」

E 球技

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間との連携した動きでゲームを展開すること。
 - ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。
 - イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。
 - ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合に参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

赤色：「知識及び技能」に関する内容

橙色：「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

青色：「学びに向かう力、人間性等」に関する内容（運動に関する領域のみ）

学習指導要領と評価の観点の関係性

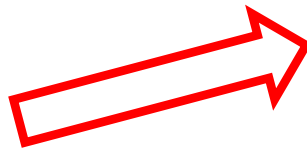
【学習指導要領】

保健体育の目標

各学年の目標

内 容

(領 域)



【評価の観点】

観点の趣旨

目標の規定をふまえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの。

内容のまとめりごとの評価規準



単元の評価規準



学習活動に即した評価規準

学習評価の改善の基本的な方向性

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① **児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと**
- ② **教師の指導改善につながるものにしていくこと**
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、**必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと**

1. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校保健体育より



第2編

「内容のまとめりごとの評価規準」 を作成する際の手順

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育 第1 目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【体育・保健体育（1）評価の観点及びその趣旨〈中学校保健体育〉】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育 第2 各学年の目標及び内容
[体育分野 第1学年及び第2学年] | 目標】

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

【体育・保健体育（2）学年・分野別の評価の観点の趣旨
〈中学校 保健体育〉第1学年及び第2学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点について具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に取り組もうとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育 第2 各学年の目標及び内容
[体育分野 第3学年] | 目標】

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

【体育・保健体育（2）学年・分野別の評価の観点の趣旨〈中学校 保健体育〉第3学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに実践する為の自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

① 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

例) [体育分野] 第1学年及び第2学年「E 球技」

E 球技

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間との連携した動きでゲームを展開すること。
 - ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。
 - イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。
 - ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合に参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

赤色：「知識及び技能」に関する内容

橙色：「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

青色：「学びに向かう力、人間性等」に関する内容（運動に関する領域のみ）

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・学習指導要領の(1)の文章中、「知識」について該当する箇所は「球技の特性や成り立ち、(略)について理解する」の部分であり、「技能」について該当する箇所は、各型(領域内容)の技能の指導内容を示した「ア、イ、ウ」の部分である。
- ・「知識」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。
- ・「技能」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する各型(領域の内容)の技能の指導内容について、その文末を「～できる」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・学習指導要領の(2)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている」として、評価規準を作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・学習指導要領の(3)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

学習指導要領 2 内容（球技）	球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間との連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。</p> <p>イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。</p>	<p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p>	<p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合に参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準（例） 球技	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。 ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事などをしたり、健康安全に気を配ったりしている。 <div data-bbox="1313 1021 1835 1213" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>健康・安全に関する内容については「～している」と表記する。</p> </div>

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（保健分野）

※教科の目標は、体育分野と同様

【中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育

第2 各学年の目標及び内容 [保健分野] | 目標】

(1)	(2)	(3)
個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【体育・保健体育（2）学年・分野別の評価の観点の趣旨

〈中学校 保健体育〉保健分野】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する過大を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（保健分野）

① 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

(3) 傷害の防止

傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

赤色：「知識及び技能」に関する内容

橙色：「思考力、判断力、表現力等」に関する内容

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（保健分野）

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、学習指導要領の内容「ア傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。」のうち「傷害の防止について理解を深める」と示している部分が該当し、評価規準は、その文末を「～について理解している」として作成することができる。
- ・「技能」については、「応急手当をすること」の部分が該当し、評価規準はその文末を「～についての技能を身に付けている」として作成することができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断」については、学習指導要領の内容「イ傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること」のうち、「危険の予測やその回避方法を考え」と示している部分が該当し、評価規準は「傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えている」として作成することができる。
- ・「表現」については、「それらを表現すること」と示している部分が該当し、評価規準は「傷害の防止について、考えたことを表現している」として作成することができる。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・保健分野では、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、「主体的に学習に取り組む態度」については、保健分野の目標である「生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う」と示している部分を参考にする。評価規準は、保健分野の目標である「明るく豊かな生活を営む態度を養う」を踏まえて、「傷害の防止について学習に主体的に取り組もうとしている」として作成することができる。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（保健分野）

（２）学習指導要領の「２ 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

例）〔保健分野〕第2学年「(3) 傷害の防止」

学習指導要領 2 内容（傷害の防止）	傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。 (ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。 (イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。 (ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。 (エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。	イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、保健分野の目標（３）を参考にする。 <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> </div>

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（保健分野）

学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準（例） 傷害の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○知識 <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 ・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。 ・自然災害による災害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 ○技能 <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解していると同時に、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともにそれらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>※必要に応じて学年・分野別の評価の観点の趣旨（「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分）等を用いて作成する。</p> </div>

第3編
單元ごとの学習評価について

1 学習評価の進め方について

評価の進め方

1

単元の目標を作成する

2

単元の評価規準を作成する

3

「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4

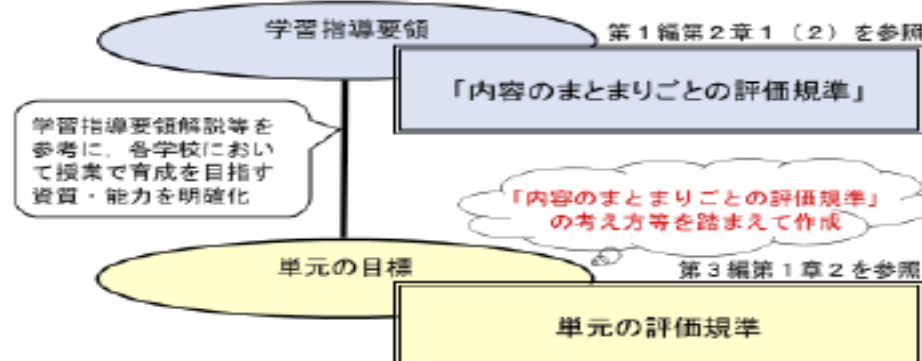
観点ごとに総括する

留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



※ 外国語科及び外国語活動においてはこの限りではない。

- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

2 単元の評価規準の作成のポイント

【体育分野】

(1) 本事例における「単元」の考え方

表1：年間指導計画（例）

学年	時間	4			5			6			7			9			10			11			12		1		2		3					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年及び第2学年	105	オリエンテーション	理論(1)	陸上競技 [10] 短距離リレー(5) ハードル(5)			① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー 選択 2クラス2展開 [10]			水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択[10] *外部指導者のTTIによる協力			武道 (柔道・剣道のいずれかを選択) 2クラス2展開[14] *外部指導者のTTIによる協力			器械運動 マット運動(7) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動より 1選択(7) [14]			② 球技・ネット型 バレーボール・テニス 選択 2クラス2展開 [8]		スケート [6]集中													
		保健(1)健康の成り立ちと疾病の発生要因/生活習慣と健康 [4]	体づくり運動(2)	理論(1)	保健(2)心身の機能の発達[6]			保健(2)心の健康[6]			陸上競技[4] 長距離走		理論(1)	体づくり運動[3] 組み合わせ																				
第1学年及び第2学年	105	体づくり運動	陸上競技[8] 跳躍種目選択 走り高跳び・走り高跳び 2クラス2展開			③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン 選択 2クラス2展開 [10]			水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択 [10]			④ 球技・ベースボール型 ソフトボール① ソフトボール② 2クラス2展開 [12]			ダンス 創作ダンス(9) フォークダンス(9) 2クラス2展開 [18] *外部指導者のTTIによる協力			⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー 選択 2クラス2展開 [10]		スキー [6]集中														
		理論(1)	保健(1)生活習慣病などの予防/喫煙、飲酒、薬物乱用と健康[8]			体づくり運動 [2]	理論(1)	保健(3)傷害の防止[8]			陸上競技[4] 長距離走		理論(1)	体づくり運動[3] 組み合わせ																				

2 単元の評価規準の作成のポイント（3） 「単元の評価規準」作成の手順

第1学年及び第2学年「E 球技」（ゴール型）の例」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。 ・マークされていない味方にパスを出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。

2 単元の評価規準の作成のポイント

(4) 「単元の評価規準」作成における【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成する。
 - ・前者は一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。後者は、学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。
 - ・「技能」については、例示の文末を「～ができる」として、評価規準を作成する。
- 例) 例示：ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをする事。

↓
評価規準：ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをする事ができる。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、例示の文末を「～している」として、評価規準を作成する。
- 例) 例示：提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝える事。

↓
評価規準：提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、「～しようとしている」として評価規準を設定する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している」「～を確保している」として、評価規準を設定する。

例) 例示：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとする事。

↓
評価規準：練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

2 単元の評価規準の作成のポイント（3）「単元の評価規準」作成の手順

【手順1】全ての「単元の評価規準」を作成する

※本事例における第1学年及び第2学年「E 球技」（ゴール型）の例」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。 ・マークされていない味方にパスを出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。

2 単元の評価規準の作成のポイント（3）「単元の評価規準」作成の手順

【手順2】「単元の評価規準」を作成する

※本事例における第1学年「E 球技」（ゴール型）の例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

2 単元の評価規準の作成のポイント

(5) 指導と評価の一体化を目指して

イ 効果的に観点別学習状況の評価を進める上での観点ごとの留意点

指導と評価を一体的に進めるに当たっては、指導を充実させた上で評価を行うことが重要であることから、学習指導要領解説に示された以下の事項等について十分に留意する必要がある。

○ 「知識・技能」

- ・ 「知識」については、体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識で示している。具体的な知識と汎用的な知識を関連させて指導することで、各領域の特性や魅力や運動やスポーツの価値等を理解したりすることにつながる。
- ・ 「技能」については、「内容のまとめり」ごとに、例示等を参考にして、運動種目等の固有の技能や動き等を身に付けさせることが具体的なねらいとなるが、各領域及び運動種目等における技能や攻防の様相、動きの様相との関連に留意し、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすること。
- ・ 「体づくり運動」については、体ほぐしの運動は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、体の動きを高める運動は、ねらいに応じて運動を行うとともにそれらを組み合わせることが主な目的となること、実生活に生かす運動の計画は、運動の計画を立てて取り組むことが主な目的となることから、「技能」の評価規準は設定していない。
ただし、「体づくり運動」の「運動」については、主に「思考・判断・表現」に整理していること。

2 単元の評価規準の作成のポイント

(5) 指導と評価の一体化を目指して

イ 効果的に観点別学習状況の評価を進める上での観点ごとの留意点

○ 「思考・判断・表現」

- ・ 例示では，例えば，「提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えること」のように「伝える」までの一連の具体的な指導内容を示したものと，「提供された練習方法から，自己の課題に応じて，技の習得に適した練習方法を選ぶこと」のように，思考力，判断力に重点を当てたものが示されていること。

なお，学習指導要領の体育分野で示す「表現力」とは，運動の技能に関わる身体表現や表現運動系及びダンス領域における表現とは異なり，思考し判断したことを他者に言葉や文章及び動作などで表現することであること。

- ・ 例示は，「体の動かし方や運動の行い方に関する思考力，判断力，表現力等」，「体力や健康・安全に関する思考力，判断力，表現力等」，「運動実践につながる態度に関する思考力，判断力，表現力等」，「生涯スポーツの設計に関する思考力，判断力，表現力等」の中から，各領域で取り上げることが効果的な指導事項の具体例を重点化して示していること。

2 単元の評価規準の作成のポイント

(5) 指導と評価の一体化を目指して

イ 効果的に観点別学習状況の評価を進める上での観点ごとの留意点

○ 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・ 体育分野においては、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、従前より学習指導要領に「態度」を内容として示している。また、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされており、各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意すること。
- ・ 例示については、体育分野の学習に関わる「学びに向かう力、人間性等」の具体的な指導事項として示したものであり、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通の指導事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的かつ具体的な指導事項を重点化して示していること。
- ・ 例えば、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の積極性や自主性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ること。
- ・ 自己の最善を尽くして運動をしたり、生涯にわたって運動に親しんだりするなどの運動への愛好的な態度は、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割や責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲や、健康・安全に留意する態度などの具体的な学習を通して育成されるものであると考えられること。

これらの学習を通して、「粘り強く学習に取り組む態度」や「自ら学習を調整しようとする態度」が相互に関わり合いながら立ち現れ、運動への愛好的な態度が育まれるものと考えられる。

2 単元の評価規準の作成のポイント

【保健分野】

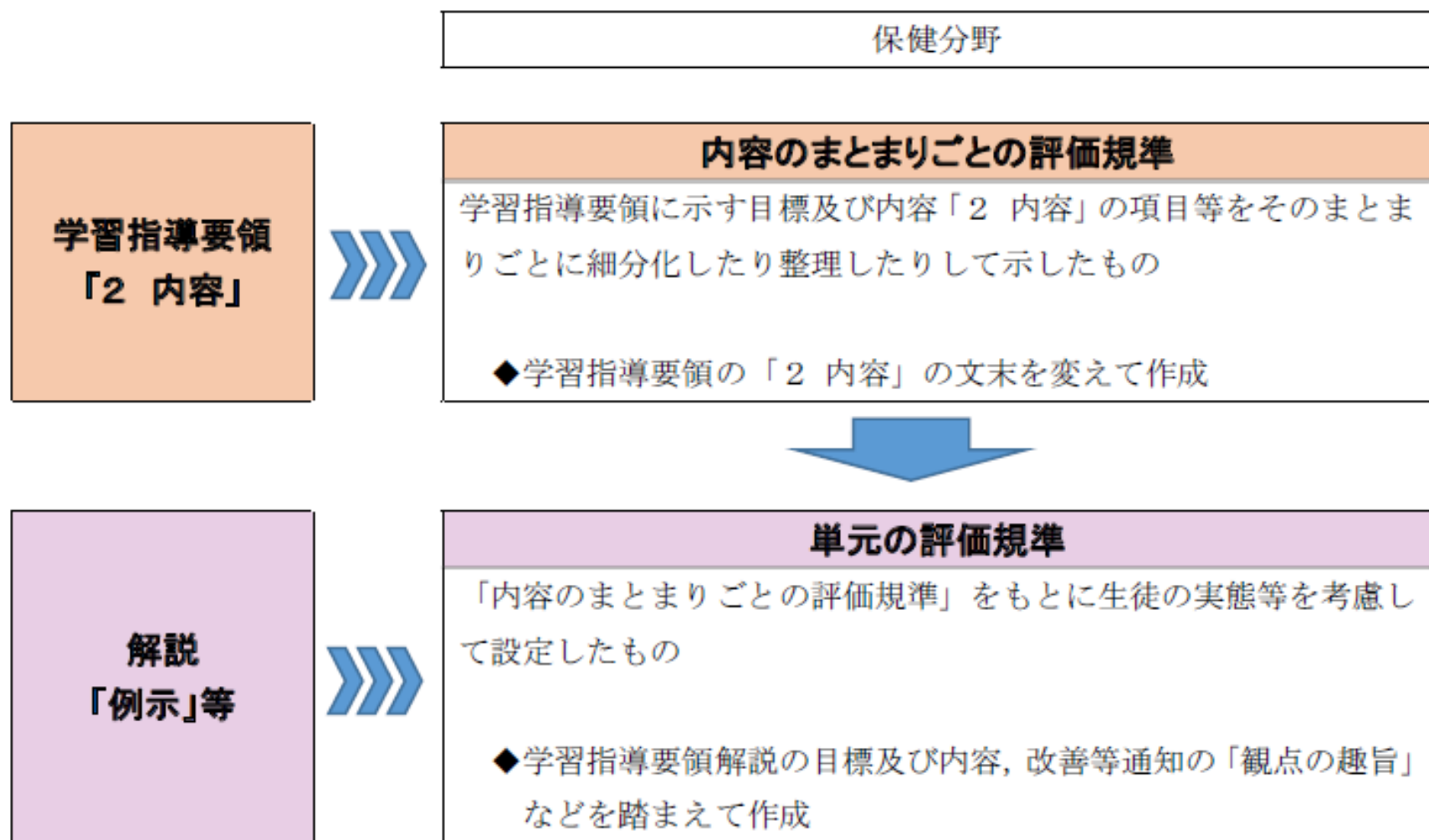
ア 本事例における「単元」の考え方

【中学校保健分野の単元設定例】

内容のまとめり	単元設定例	学年	時数
(1)健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因 生活習慣と健康	1	4
	生活習慣病などの予防	2	4
	喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	2	4
	感染症の予防	3	4
	健康を守る社会の取組	3	4
(2)心身の機能の発達と心の健康	心身の機能の発達	1	6
	心の健康	1	6
(3)傷害の防止	傷害の防止	2	8
(4)健康と環境	健康と環境	3	8

2 単元の評価規準の作成のポイント

- イ 「内容のまとめりごとの評価規準」，解説と「単元の評価規準」との関係性を確認する。



2 単元の評価規準の作成のポイント

ウ 「単元の評価規準」を作成する際のポイント

○ 「知識・技能」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の記載を基に評価規準を作成する。その際、保健の技能はその行い方（対処の仕方）についての知識の習得と併せて指導することが大切であるため、原則や概念に関する知識に加えて、該当する技能についての行い方（対処の仕方）に関する知識も評価規準に加筆することも考えられる。

- ・ 「知識」については、解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。
- ・ 「技能」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、（～が）できる」として、評価規準を作成する。

○ 「思考・判断・表現」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、〔例示〕に記載された内容を踏まえると同時に、実際の学習活動に合わせ、文末を「～している」として、作成する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

2 単元の評価規準の作成のポイント

エ 「内容のまとめりごとの評価規準（例）」及び「単元の評価規準（例）」

【内容のまとめりごとの評価規準】（健康と環境）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解している。・ 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があることを理解している。・ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。	<ul style="list-style-type: none">・ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	<ul style="list-style-type: none">・ 健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとしている。

2 単元の評価規準の作成のポイント

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があること、また、体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること、その限界を超えると健康に重大な影響が見られることから、気象情報の適切な利用が有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であること、明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しにくい至適範囲があること、その範囲は、学習や作業などの種類により異なることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③水は、人間の生命の維持や健康な生活と密接な関わりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の水質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していること、飲料水としての適否は科学的な方法によって検査し、管理されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できること、空気中の一酸化炭素は、主に物質の不完全燃焼によって発生し、吸入すると一酸化炭素中毒を容易に起こし、人体に有害であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤人間の生活に伴って生じたし尿やごみなどの廃棄物はその種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①健康と環境に関わる原則や概念を基に、収集した情報を整理したり、習得した知識を個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見し、課題解決に取り組み、健康を保持増進する方法を選択している。</p> <p>②健康と環境について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、疾病等にかかるリスクを軽減し、健康を保持増進する方法を選択し、他者と話し合ったり、ワークシートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①健康と環境について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

各事例について

事例 1	キーワード 体育分野 指導と評価の計画から評価の総括まで 「球技：ゴール型（サッカー）」（第1学年）
事例 2	キーワード 体育分野 「知識・技能」の評価 「器械運動（マット運動）」（第1学年）
事例 3	キーワード 体育分野 「思考・判断・表現」の評価 「武道（柔道）」（第2学年）
事例 4	キーワード 体育分野 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 「ダンス（創作ダンス）」（第3学年）
事例 5	キーワード 保健分野 指導と評価の計画から評価の総括まで 「傷害の防止」（第2学年）
事例 6	キーワード 保健分野 「知識・技能」の評価 「心の健康」（第1学年）
事例 7	キーワード 保健分野 「思考・判断・表現」の評価 「生活習慣病などの予防」（第2学年）
事例 8	キーワード 保健分野 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 「健康と環境」（第3学年）

2. 令和2年度「中学校保健体育科担当指導 主事連絡協議会」より

-
- (1) 現在示されている関係通知等
 - (2) 今後の体育、保健体育の指導について

(1) 現在示されている関係通知等

学習活動

- ・ 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
- ・ 学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について
- ・ 今年度における学校の水泳授業の取扱いについて

学習の重点化

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性について
- ・ 学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について

現在示されている関係通知等

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
～「学校の新しい生活様式」～
(文科省初中局健康教育・食育課令和2年6月16日)

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い 教科活動	部活動 (自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2 m程度 (最低1 m)	行わない	個人や少人数でのリ スクの低い活動で短 時間での活動に限定
レベル2	できるだけ2 m程度 (最低1 m)	リスクの低い活動 から徐々に実施	リスクの低い活動か ら徐々に実施し、教 師等が活動状況の 確認を徹底
レベル1	1 mを目安に学級内 で最大限の間隔を取 ること	適切な感染対策を 行った上で実施	十分な感染対策を 行った上で実施

※ レベル1～3のいずれの地域に該当するかは、地域のまん延状況や医療提供体制等の状況を踏まえ、地方自治体の衛生主管部局と相談の上、学校の設置者において判断すること。

現在示されている関係通知等

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
～「学校の新しい生活様式」～
(文科省初中局健康教育・食育課令和2年6月16日)

○各教科等について

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」※（以下、「上記の活動」）
↓（この中でも特にリスクの高い活動）

体育、保健体育における
「児童生徒が密集する運動」「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

【レベル3地域】

上記の活動は、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い」ことから、
行わないようにする。

【レベル2地域】

上記の活動は、可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から
徐々に実施することを検討。

児童生徒の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について、可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施する。この場合についても、特にリスクの高い活動の実施については慎重に検討する。

現在示されている関係通知等

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル
～「学校の新しい生活様式」～
(文科省初中局健康教育・食育課令和2年6月16日)

【レベル2地域】

- ・ 器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行わせること。
- ・ 医療的ケア児及び基礎疾患児の場合や、保護者から感染の不安により授業への参加を控えたい旨の相談があった場合等は、授業への参加を強制せずに、児童生徒や保護者の意向を尊重すること。
- ・ 体育の授業は、当面の間、地域の感染状況にもよるが、可能な限り屋外で実施すること。ただし、気温が高い日などは、熱中症に注意すること。体育館など屋内で実施する必要がある場合は、特に呼気が激しくなるような運動は避けること。

【レベル1地域】

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」については、可能な限り感染症対策を行った上で実施することを検討する。その際には、レベル2地域における留意事項も、可能な範囲で参照する。

現在示されている関係通知等

学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について
(スポーツ庁政策課学校体育室令和2年5月21日)

学校の体育の授業におけるマスクの着用は必要ありませんが、体育の授業における感染リスクを避けるためには、地域の感染状況を踏まえ、児童生徒の間隔を十分に確保するなど、下記の事項を十分に踏まえた対策を講じることが必要。

(ポイント) ※各項目留意事項あり

- 授業中は児童生徒間の距離を2 m以上確保。
- マスク着用希望者には、マスクの着用を否定するものではない。
ただし、運動時には医療用や産業用マスクは着用しない。
- 見学者については、マスクを着用させ、児童生徒間の距離を1～2 m以上確保する。
- 教師は、原則として体育の授業中もマスクを着用する。

現在示されている関係通知等

今年度における学校の水泳授業の取扱いについて (スポーツ庁政策課学校体育室令和2年5月22日)

児童生徒の健康と安全を第一に考えて、地域の感染状況を踏まえ、密集・密接の場면을避けるなど、**下記の事項を十分に踏まえた対策を講じることを前提として、水泳の授業を実施することは差し支えないと考えます。**なお、このような対策を講じることが困難であり、**児童生徒の安全を確保することができないと判断する場合は、今年度においては水泳の授業の実施を控えるようお願いします。**

(ポイント)

- 学校プールは、学校環境衛生基準に基づき管理する。
- 毎朝の検温や健康観察により、学習前の児童生徒の健康状態を把握する。
- プールに一斉に大人数の児童生徒が入らないようにする。
- 授業中、児童生徒が手をつないだり、体を支えるなど、児童生徒が密集する活動は避ける。
- 人数確認は児童生徒が互いに2m以上の身体的距離を確保しつつ同時に挙手をしてお互いを確認するとともに、名簿を用いた点呼を併用するなどの工夫をする。
- 更衣室は少人一斉に利用させず数の利用にとどめる。
- タオルやゴーグルなどの私物の貸し借りなどはしないよう指導する。

現在示されている関係通知等

※水泳の指導を扱わない場合も、水泳の事故防止に関する心得については必ず取り上げる
こと。

【参考】

ライフセービング協会

JLA e-Lifesaving

「守ろう！いのち学び合おう！
水辺の安全」 SWIM & SURVIVE

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

The screenshot shows the homepage of the JLA e-Lifesaving website. At the top, there are logos for 'e-Lifesaving', 'Swim & Survive', and the Japanese Red Cross Society. Below the logos is a navigation menu with links: 'トップ', '事故学習', '動画で考えよう!', '実せん動画集', 'クイズ! 水辺の安全って?', '動画集', '資料集', and '応援メッセージ'. The main content area features a large blue banner with the text '守ろう!いのち 学び合おう!水辺の安全 SWIM & SURVIVE' and a cartoon umbrella character. Below the banner are four main content blocks: '事故学習' (Accident Learning) with 'プール編' and '海編' buttons; '動画で考えよう!' (Think about it with videos!) with a '海でのできごと' button; '実せん動画集' (Real-life video collection) with '助かる方法' and '助ける方法' buttons; and 'クイズ! 水辺の安全って?' (Quiz! Water safety?) with '初級編' and '中級編' buttons. At the bottom, there is a '活用ガイド' (Usage Guide) section with a '学校で! 単体で!' (Use in school! Individually!) icon and a photo of people. At the very bottom, there are two cartoon girl characters.

現在示されている関係通知等

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（通知）
（文科省初中局長令和2年5月15日）

子供たちの「学びの保障」のための教育活動について

（1）登校日の設定等による学校での指導の充実

- ・ 臨時休業期間中の登校日の設定、分散登校の実施
- ・ 1コマを40分や45分に短くしたうえでの一日当たりの授業コマ数の増加等の時間割編成の工夫
- ・ 長期休業期間の短縮
- ・ 土曜日の活用
- ・ 学校行事の重点化や準備時間の縮減など

現在示されている関係通知等

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（通知）
（文科省初中局長令和2年5月15日）

子供たちの「学びの保障」のための教育活動について

（2）年度当初予定していた内容の指導を本年度中に終わることが困難な場合の対応

①次年度以降を見通した教育課程編成

今年度在籍している最終学年以外の児童生徒に係る教育課程に関する特例的な対応として、各学校において本年度指導を計画している内容について学年内に指導が終えられるように努めても、なお臨時休業及び分散登校の長期化などにより指導を終えることが難しい場合は、（中略）令和3年度又は令和4年度までの教育課程を見通して検討を行い、学習指導要領において指導する学年が規定されている内容を含め、次学年又は次々学年に移して教育課程を編成する。

現在示されている関係通知等

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（通知）
（文科省初中局長令和2年5月15日）

子供たちの「学びの保障」のための教育活動について

（2）年度当初予定していた内容の指導を本年度中に終えることが困難な場合の対応

②学校の授業における学習活動の重点化

個人でも実施可能な学習活動の一部をICT等を活用して授業以外の場において行うことなどにより、学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いが特に必要な学習への動機付けや協働学習、学校でしか実施できない実習等に重点化する。

※①及び②の取組については、学校における指導の充実を最大限図ったうえで、なお本年度中に予定していた内容の指導が終わらない場合の補完的な取組であることに留意すること。

現在示されている関係通知等

学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について(第2報)(通知)
(文科省初中局教育課程課長、教科書課長令和2年7月17日)

学習活動の重点化に係る考え方

○各教科等に共通の考え方

- ・ 学習指導要領に規定されている内容を改めてよく確認し、それを効果的に指導する観点から、主たる教材である教科書及び教科書と併用できる教材について、授業において取り上げるべき箇所を確認することが重要である。
- ・ 学校の授業以外の場で取り扱う学習活動については、事前指導を十分に行った上で取り組ませるとともに、生徒一人一人の授業外での学習状況を適切な方法により把握し、その後の指導の改善等に生かしていくことが大切である。
- ・ 指導計画の作成に当たっては、教科等や学習活動の特性に応じて、学校の授業以外の場で取り扱う学習活動と学校における授業との関連や、指導順序の変更を行う際の単元や題材などの内容のまとまりについて十分配慮することが重要である。
- ・ 次学年又は次々学年への指導内容の移行を行う場合には、内容の系統性や関連性を踏まえてあらかじめ組織的に検討を行い、次学年又は次々学年の教育課程も含めて計画的な編成・実施がなされることが必要である。その際には、令和3年度から新学習指導要領が全面実施されることに留意する。

現在示されている関係通知等

学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について(第2報)(通知)
(文科省初中局教育課程課長、教科書課長令和2年7月17日)

学習活動の重点化に係る考え方

○保健体育

- ・ 生徒が密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする運動については、地域の感染状況等を踏まえ、運動の時間を段階的に長くしたり、年間指導計画の中で指導順序を入れ替えたりするなどの工夫が考えられる。
- ・ 体育分野については、一般的には毎週2～3コマ程度の授業を実施することとなるが、夏季休業期間を短縮する場合で、熱中症事故防止の観点から授業の実施が困難なときは、学校の授業以外の場で学習活動を行うこととすることが考えられる。
- ・ その場合の学習活動の内容としては、個人や少人数で距離をとって実施する運動でけがのリスクが低い運動や、学習内容について理解し、自分の考えをまとめる活動などが考えられる。

(2) 今後の体育、保健体育の 指導について

体育分野

- ・ 年間指導計画の工夫・改善
- ・ 「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と「学校における授業」を関連付けた指導の充実
- ・ 感染レベルと実施可能な学習活動

年間指導計画の工夫・改善

年間指導計画の工夫・改善

【年度当初】

学年	時間	3月		4月		5月		6月		7月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年	105	オリエンテーション [1]	① 球技・ゴール型 (バスケットボール・サッカー選 択) 2クラス2展 開 [10]	② 武道 (柔道・剣道のいずれかを選 択) 2クラス2展開 [10] * 外部指導者のTTIによる協 力	水泳 クロール・平泳ぎのいずれか を含む2以上選択 [10] * 外部指導者のTTIによる協 力	③ 陸上競技 [14] 短距離・リレー (5) ハードル (5)	器械運動 マット運動 (7) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均合運動より 1選択 (7) [14]	④ 球技・ネット型 バレーボール・テニス 選択 [8] 2クラス2展開	スケート [6] 集中	保健(1)健康の成り立ちと疾病の 発生原因/生活習慣と健康 [4]	体づくりに関する運動 [4]	保健 (2)心身の機能の発達 [6]	保健(2)心の健康 [6]	陸上競技 [4] 長距離走	体づくりに関する運動 [3] 組み合わせ																			
		体づくりに関する運動 [4]								体づくりに関する運動 [3] 組み合わせ																								

【改善例】

学年	時間	6月		7月		8月		9月		10月		12月		1月		2月		3月																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年	105	オリエンテーション [1]	③ 陸上競技 [8] 短距離・リ レー	水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含 む2以上選択 [12] * 外部指導者のTTIによる協 力	④ 球技・ネット型 バドミントン・テニス選 択 [8] 2クラス2展開	器械運動 マット運動 (8) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均合運 動より選択 (8) [12]	③ 陸上競技 [8] ハードル	② 武道 (柔道・剣道のいずれかを選 択) 2クラス2展開 [10] * 外部指導者のTTIによる協 力	① 球技・ゴール型 (バスケットボール・サッカー 選択) 2クラス2展 開 [10]	土曜日授 業等 (8)	保健(1)健康の成り立ちと疾病の 発生原因/生活習慣と健康 [4]	体づくりに関する運動 [4]	保健 (2)心身の機能の発達 [6]	保健(2)心の健康 [6]	陸上競技 [4] 長距離走	体づくりに関する運動 [3] 組み合わせ																		
		体づくりに関する運動 [4]									体づくりに関する運動 [3] 組み合わせ																							

①球技：ゴール型 →密集、接触の可能性が高い運動であることから年度後半に実施

②武道 →密集、接触の可能性が高い運動であることから年度後半に実施

③陸上競技 →個人等で実施できる運動が主であることから授業再開時期に実施

④球技：ネット型 →個人等で実施できる運動が主であることから年度前半に実施

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」
と
「学校における授業」
を関連付けた指導の充実

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と 「学校における授業」を関連付けた指導の充実

学校の授業以外の場での学習活動が可能と考えられる内容

体育の学習内容 ※朱書き部分：「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」が含まれていると考えられる	知識及び技能		思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
	知識	技能		
中学校第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義と行い方 ・体の動きを高める方法各領域における ・運動の特性や成り立ち ・技術（技）の名称や行い方 ・その運動に関連して高まる体力 ・伝統的な考え方 ・表現の仕方 	各領域の基本的な技能や動きを身に付け、記録や技に挑戦したり、簡易な試合や発表をできるようにしたりすること。	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組もうとする ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする ・フェアなプレイを守ろうとする ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする ・よい演技を認めようとする ・仲間の学習を援助しようとする ・分担した役割を果たそうとする ・話合いに参加しようとする ・一人一人の違いを認めようとする ・健康・安全に気を配る

学校の授業以外の場で取り扱う学習活動については、事前指導を十分に行った上で取り組ませるとともに、生徒一人一人の授業外での学習状況を適切な方法により把握し、その後の指導の改善等に生かしていくことが大切である。

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と 「学校における授業」を関連付けた指導の充実

学校の授業以外の場で取り扱うことが可能と考えられる学習活動

授業における技能の習得を効果的にするための活動など（例）

- ・ 陸上 腕振り／抜き脚練習／踏切動作
 - ・ 球技 パスなどの構え／フットワーク／スイング（型）
 - ・ 武道 礼法／姿勢／進退動作（足さばき）
構え／素振り／受け身（型）
 - ・ ダンス 体幹部でリズムをとって全身で自由に弾んで踊る
 - ・ その他 各運動に関連して高まる体力に関する運動
-
- ・ 体づくり運動（体ほぐしの運動/体の動きを高める運動/実生活に生かす運動の計画）の実践

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と
「学校における授業」を関連付けた指導の充実

剣道に関連して高まる体力 瞬発力

瞬発力を高める運動（例）

立ち幅とび

連続5回×3セット

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と
「学校における授業」を関連付けた指導の充実

剣道に関連して高まる体力 巧緻性

巧緻性を高める運動（例）

縄跳び

（前両足回旋 10回 → 前交互回旋 10回 →
後両足回旋 10回 → 後交互回旋 10回）

× 3 セット

※ 緩 → 急

「学校の授業以外の場で取り扱う学習活動」と 「学校における授業」を関連付けた指導の充実

中学校体育分野：運動に関する領域 ワークシート(例)

【中学校第1学年及び第2学年】 球技：ネット型(バレーボール)	
知識	1. バレーボールの特性について調べたことを記述してください。
	2. バレーボールの成り立ちについて調べたことを記述してください。
思考力・判断力・表現力等	1. 練習やゲームの場面で、勝手を返す、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、なぜそう思ったか理由を添えて書いてください。
	2. 自分のチームに次のような課題があった場合、その課題に応じた練習方法を以下の①～③から選んでください。また、選んだ理由を書いてください。 【チームの課題】ラリーが続かない。 【課題に応じた練習方法】 ※選んだものに○を記入する。 () ①バスの技術を身に付ける練習 () ②サーブを相手コートに入れる練習 () ③様々な種類のアタックができるようになる練習 【練習方法を選んだ理由(その練習を行うと課題が解決できると考えた理由)】
	自己評価 ※あてはまるものに○を記入 () A とても積極的に取り組めた () B 積極的に取り組めた () C あまり積極的に取り組むことができなかった () D 積極的に取り組むことができなかった
	家庭学習に関する感想など
学習の振り返り	

「知識」
「思考力，判断力，表現力」

学習指導要領等を参考に、対象学年において示されている「知識」の学習内容について課題設定。

- ・ 学習指導要領等を参考に、対象学年において示されている「思考力，判断力，表現力等」の学習内容について課題設定。
※学習指導要領解説の〈例示〉を参照
- ・ 映像などを活用することも考えられる。
- ・ 学校での学習における指導場面との関連を図るなどの工夫をする。

感染レベルと実施可能な学習活動

学校体育係

「もどる

- ＞ 学校体育係（体力向上推進）
- ＞ 健康・安全教育係
- ＞ 感染症に係る保健体育の授業

リンク

- ＞ 報道発表資料
- ＞ 奈良県学校保健会
- ＞ (公財) 奈良県学校給食会
- ＞ (独)日本スポーツ振興センター 学校安全Web

各課の情報

学校体育係

保健体育課

学校体育係

段階的緩和例（中学校・高等学校）

地域の感染レベルに応じた

保健体育授業の活動内容の段階的緩和例等です。

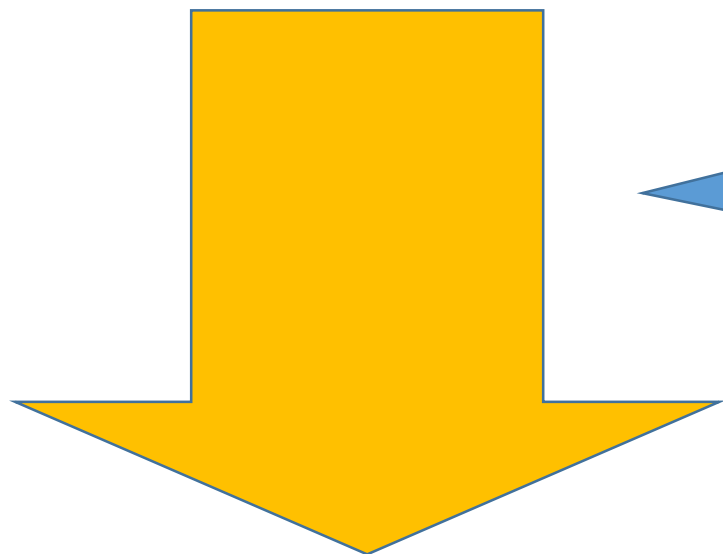
新型コロナウイルス感染症の地域の感染レベルに応じた活動内容の段階的緩和例です。
本資料では、感染レベルに応じて活動内容を段階的に緩和していく一例をあげています。
実施に当たっては、地域の感染状況に応じて柔軟に対応してください。
また、県内中学校の4月から6月までの保健体育授業実施例もあげています。

 [1. 県内中学校保健体育授業実施例\(pdf 307KB\)](#)

 [2. 地域の感染レベルに応じた中学校・高等学校保健体育授業の活動内容の段階的緩和例\(pdf 112KB\)](#)（中学校・高等学校）

保健分野

年度当初予定していた内容の指導を本年度中に
終わることが困難な場合の対応



【特例的な対応】
各種取組を行った上
で補完的な取組とな
るよう留意する

- ①次年度以降を見通した教育課程の編成
- ②学校の授業における学習活動の重点化

年間指導計画の中で指導順序を入れ替えたりするなどの工夫

【中学校】保健分野

感染症予防や熱中症予防の観点から、体育分野の授業が難しい場合は、保健分野を先に実施することも考えられる。

内容のまとめり	単元例	学年	時数例
(1)健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因/ 生活習慣と健康	1	4
	生活習慣病などの予防	2	4
	喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	2	4
	感染症の予防	3	4
	健康を守る社会の取組	3	4
(2)心身の機能の発達と 心の健康	心身の機能の発達	1	6
	心の健康	1	6
(3)障害の防止	傷害の防止	2	8
(4)健康と環境	健康と環境	3	8

ストレス対処や応急手当における「技能」の学習について、指導時期を変更することも考えられる。

家庭学習の学習評価への反映（Q&Aより）

問3 臨時休業期間中に実施した家庭学習の内容を、当該児童生徒の学習評価に反映してよいか。

○ 臨時休業に伴い学校に登校できない児童生徒に対しては、指導計画等を踏まえながら家庭学習を課し、教師がその学習状況や成果を確認し、学校における学習評価に反映することができます。

○ 各学校が休業期間中に課す家庭学習については、登校再開後の授業への円滑な接続を見据え、主たる教材である教科書を中心に、教科書と併用できる教材等を適切に組み合わせたものとして課し、学校の指導計画の下で、その学習状況や成果を把握し指導や学習の改善に努めることが重要と考えています。

*授業で指導していない内容について、家庭学習のみで学習評価をつけることがないよう配慮する必要がある。

「思考・判断・表現」や「主体的に取り組む態度」の評価（Q&Aより）

問4 家庭学習の成果を学習評価に反映する場合、「思考・判断・表現」や「主体的に取り組む態度」はどのように評価すればよいのか。

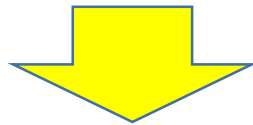
○ 令和2年4月10日付け初等中等教育局長通知「新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒の学習指導について」に基づき、（～略～）当該学習活動の実施や学習成果の把握が適切に行えるかどうかを含め、それぞれの実態に応じて検討いただくこととなりますが、一般論としては、①ワークブックやプリント、ノートへの記述など家庭学習の直接の成果物を求める方法により把握できる情報と、②登校日や家庭訪問等、児童生徒と直接やりとりする方法により把握できる情報とを適切に組み合わせた指導計画を立案し、その下での学習評価の方法を検討いただくことが重要と考えます。

○ なお、各学校における家庭学習の状況を把握する上では、主たる教材である教科書に沿ったワークシートの活用も有効となります。文部科学省では、先般、教科書発行者に対し教科書の内容に対応した教材の整理を依頼したところです。

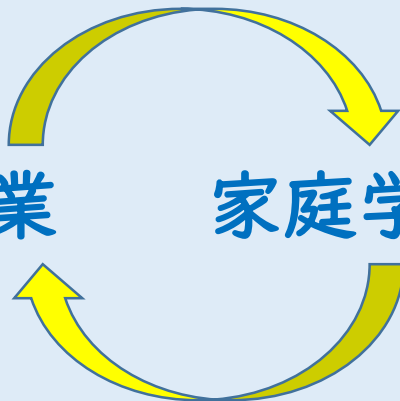
***家庭学習から把握できる情報と児童生徒と直接やり取りする情報とを適切に組み合わせた指導計画の立案**

授業と家庭学習の関連付け

授 業



授業 家庭学習



《第1学年「心の健康」の例》

【授業】

精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていること、また、心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするの、神経などの働きによることについて学習する。

【家庭学習】

ストレスの対処にはいろいろな方法があることや、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることについて理解したことをワークシートに記載する。

【授業】

ストレスによる心身の負担を軽くするようなりラクセッションについて、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実習を行う。

第1学年「心の健康」の工夫例（6h⇒5h+家庭学習）

時	ねらい	知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の発達について、健康に関する資料などを見て理解する。 ・自分の心が、どのように発達してきたのかワークシートにまとめる。 	①		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分について説明する文を作成し、自己を客観的に見つめる。 ・自己形成について、自分の体験を基に考える。 	②	①	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関わりについて、健康に関する資料などを見て理解する。 ・心と体が影響を与え合っとうまくいく経験や、失敗した経験を話し合う。 	③		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることについて、健康に関する資料などを見て理解する。 ・欲求不満への対処方法として考えられる行動についてグループで話し合い、発表する。 	④	②	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処方法として、どのような方法があるかについて考え、発表し合う。 ・自分に合ったストレスへの対処の仕方を選ぶことについて、ワークシートにまとめる。 	⑤	③	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクゼーションについて、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実習を行う。 ・リラクゼーションの方法について、実習を通して理解したことをワークシートにまとめる。 	⑥		①

時	ねらい	知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ・精神機能の発達について、健康に関する資料などを見て理解する。 ・自分の心が、どのように発達してきたのかワークシートにまとめる。 	①		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分について説明する文を作成し、自己を客観的に見つめる。 ・自己形成について、自分の体験を基に考える。 	②	①	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関わりについて、健康に関する資料などを見て理解する。 ・心と体が影響を与え合っとうまくいく経験や、失敗した経験を話し合う。 	③		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることについて、健康に関する資料などを見て理解する。 ・欲求不満への対処方法として考えられる行動についてグループで話し合い、発表する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処方法として、どのような方法があるかについて考え、ワークシートにまとめる。 ・自分に合ったストレスへの対処の仕方を選ぶことについて、ワークシートにまとめる。 </div>	④ ⑤	② ③	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクゼーションについて、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実習を行う。 ・リラクゼーションの方法について、実習を通して理解したことをワークシートにまとめる。 	⑥		①

